

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 7 日現在

機関番号：33925

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02329

研究課題名(和文) カタストロフィの想像力：ドストエフスキー文学の現代的意味とその世界展開

研究課題名(英文) The Imagination of Catastrophe: the True Modernity of Dostoevsky's Novels and Their World Expansion

研究代表者

亀山 郁夫 (Kameyama, Ikuo)

名古屋外国語大学・その他部局等・学長

研究者番号：00122359

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,400,000円

研究成果の概要(和文)：20世紀以降の現代においてドストエフスキー文学のもつ真の現代性とは何か。私たちは、この問題意識を共有しながら、基軸となるテーマを「カタストロフィ」(または危機)観念に据え、主に4つの観点(歴史観点、宗教的観点、批評的観点、創作的観点)から検討した。さらに、ドストエフスキーの文学が、現代の世界文学および芸術文化全般(映画、音楽、美術、演劇)にどのような影響をもたらした、どのような創造的リメイクを生んだかを個別具体的に明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

19世紀ロシアの作家ドストエフスキーに対する関心は、20世紀に入ってから世界的な広がりを見せ、多くの優れた作家、芸術家に絶大な影響をもたらした。その影響の原動力となったのは、人間精神の危機はもとより、人類の運命に対する予言的な洞察力にあった。その影響力は、文学のジャンルそのものの危機が叫ばれる21世紀の現在においても奇跡的な広がりを見せつつある。とりわけ、世界の表象文化全般における幅広い受容には、将来における文学の再生に大きな期待を抱かせるものがある。本研究のなかでも、表象文化との関連をめぐる一連の成果は、その意味できわめて大きな社会的意義を有すると考える。

研究成果の概要(英文)：What is the true modernity of Dostoevsky literature in the 20th century and beyond? While sharing this awareness of the issue, we set the basic theme as the concept of "catastrophe" (or crisis), and examined it mainly from four viewpoints (history, religion, criticism, and creation). In addition, we specifically clarified how Dostoevsky's literature had an impact on contemporary world literature and art culture in general (films, music, art, drama) and what kind of creative remakes it produced

研究分野：ロシア文学

キーワード：ドストエフスキー カタストロフィ 危機 ロシア正教 黙過 カラマーゾフの兄弟 表象文化

1. 研究開始当初の背景

研究の学術的背景：

今日、世界170以上の言語に翻訳されているフョードル・ドストエフスキーの文学は、もはや19世紀ロシア文学という枠に限定できない、世界文学としての普遍的な高みに立っており、彼を人文学的思考の頂点に位置する作家と見ることが出来る。その理由は何より、彼の文学が、基本的に19世紀ロシア社会を背景としつつ、古代の神話や悲劇から西欧近代の文学や芸術に足場を置き、さらには個人の体験にねざした種々の不幸(死、病い)、同時代の社会問題(犯罪、飲酒)、大規模な災厄(戦争、自然災害)など、いわゆる汎人類学的とも呼ぶべき「カストロフィ」の時空を意識しつつ構築されている点に求められる。その特色ゆえに、ドストエフスキーの文学は、現代の文芸学、宗教学、哲学、精神分析学、文化人類学等の人文学諸科学のみならず、20世紀以降の世界の表象文化全般に圧倒的な影響を与え、同時に、それぞれの学なり表象文化が、彼の文学から膨大な問題群を汲み上げてきた経緯がある。ドストエフスキーにおける「カストロフィ」の想像力を中心に、これらの相互関係に関わる研究は、ロシアを中心として世界各地の研究機関、あるいは個人レベルにおいて遂行され、その成果は、三年に一度開かれる国際ドストエフスキー学会等に披露されてきたが、現代の表象文化全般に対する影響については、ほぼ等閑視されてきたというのが現状である。とりわけ、音楽、映画などのジャンルに対するそのインパクトは絶大であり、その創造的リメイクの数も増大する一方であるにも関わらず、現実にはほとんどすべてが情報提供のレベルにとどまっており、より総合的見地からの研究とデータベース化は、ドストエフスキー研究の今後の発展にとっても不可欠のものとなっている。

2. 研究の目的

以上のような問題意識から、上記した学術的背景にもとづく新たな研究を次の4つの観点から遂行することとした。

1) 現代史の諸相に見る《災厄》とドストエフスキー文学の受容(歴史的観点)

主に20世紀以降の世界が直面したさまざまな「災厄」との関連で、ドストエフスキーの文学がどう関連づけられ、受容されてきたかを、政治、思想、文化などの観点から幅広く整理・分析し、21世紀現代における新たな読みの可能性を提示する。

2) 《終末》論の起源とロシア精神(宗教的観点)

中世から現代にいたるまで、ロシア文化のもつ《終末》のヴィジョンの系譜を明らかにすることで、現代ロシアに見る政治文化とロシア的メンタリティの関連性とその功罪を解明する。

3) 小説の《危機》と文学の新たな可能性(批評的観点)

近代小説の限界や《危機》の意識から生まれたドストエフスキーの小説の特異性及びその実験性について、他の言説領域(哲学、宗教、自然科学、精神分析学など)との照応、また、小説外のメディア(評論、批評)との競合という視点から明らかにする。

4) 《悲劇》の観念から見るドストエフスキー文学と表象文化への展開(創作的観点)

ドストエフスキー文学の創造的応用、すなわち、映画、演劇、音楽のジャンルにおける創造的リメイク、パロディ等の実例を、主に《悲劇》の観念を意識しつつ、世界の各地域(欧米、ユーラシア、ラテンアメリカ、東アジア、他のポストコロニアル地域)から集積・分類し、現代世界におけるドストエフスキーの意味を幅広く検証・分析する。

3. 研究方法

本研究の遂行上、研究分担者および研究協力者を以下の4チームを編成した。

第1チーム：「現代史の諸相に見る《災厄》とドストエフスキー文学の受容」(歴史的観点)

分担：亀山郁夫(責任)、越野剛、望月哲男、林良児、野谷文昭、梅垣昌子、甲斐清高

協力：D・マルチンセン、オリガ・フォーキン

第2チーム：「《終末》論の起源とロシア精神」(宗教的観点)

分担：望月哲男(責任)、亀山郁夫

協力：P・フォーキン、高橋知之(研究協力)

第3チーム：「小説の《危機》と文学の可能性」(批評的観点)

分担：番場俊(責任)、諫早勇一

協力：S・アローエ、沼野充義

第4チーム：「《悲劇》の観念から見るドストエフスキー文学と表象文化への展開」(創作的観点)

分担：越野剛(責任)、諫早勇一、林良児、梅垣昌子、甲斐清高、野谷文昭、亀山郁夫

協力：S・アローエ、沼野充義、高橋健一郎(研究協力)、大平陽一(研究協力)

4. 研究成果

本研究の成果は、年に一度のドストエフスキー国際シンポジウム&ワークショップの開催(合計3回)において報告され、各年度の研究実績報告書に記載されているのでそちらを参照されたい。なお、それらの成果は、以下のタイトルにて出版の予定である(2020年度の研究成果公開促進費に完成原稿とともに応募したが、残念ながら採択とはならなかった)。

『ドストエフスキーの想像力 表象文化としての世界展開』

亀山郁夫、番場俊、望月哲男編

- ・第1部 グラフィックな想像力 導入・本論・対論
- 番場 俊「ドストエフスキーとグラフィックな想像力」
- ステファノ・アローエ「ドストエフスキーの草稿におけるカリグラフィーと創造的思考」
- 望月 哲男「文字と絵：ドストエフスキーのカリグラフィー論に関するコメントと考察」
- ・第2部 表象文化とドストエフスキー（1）
- 越野 剛「現代アジア映画における『罪と罰』の翻案」
- 梅垣 昌子「ウディ・アレンの罪なき罰 現代アメリカにおけるドストエフスキー表象」
- 林 良児「ロベール・ブレッソンとドストエフスキー ブルーストの影」
- ステファノ・アローエ「黒澤明『白痴』について」
- 亀山 郁夫「恍惚とニヒリズムの境界 ベルトルツヒとドストエフスキー」
- ・第3部 表象文化とドストエフスキー（2）
- 高橋健一郎「プロコフィエフの『賭博者』」
- 亀山 郁夫「シヨスタコーヴィチの『悪霊』」
- 高橋 知之「ディケンズの絵画的想像力とドストエフスキー」
- 齋須 直人「ロシアの学校履修科目「文学」への反映に見るドストエフスキー」
- 泊野 竜一「福田恒存の『罪と罰』 演劇に見る日本のドストエフスキー受容」
- 福井 勝也「『白痴』ナスターシャの《ハラキリ》 日本の文化表象の問題」
- 甲斐 清高「『白痴』とピックウィック」
- ・第4部 カタストロフィの想像力（125）
- デボラ・マルティンセン「非寛容の悲劇 ドストエフスキー『白痴』論」
- 望月 哲男「《赦し》の失敗：『白痴』から『カラマーゾフ』へ」
- デボラ・マルティンセン「ドストエフスキー『罪と罰』における恥と罪の意識」
- 亀山 郁夫「カタストロフィの想像力とナラティブの戦略」

また、最終年度の研究成果の一部は、雑誌『思想』（2020年6月号、岩波書店、46～74頁）に掲載された。

- パーヴェル・フォーキン「ドストエフスキーの『信仰告白』からみた『カラマーゾフの兄弟』」
- 望月哲男「聖と俗・未来の凶像 フォーキンうじの論考の整理と若干の展開」
- 越野剛「シンボルとしてのことば」
- 番場俊「象徴から問いへ」
- 亀山郁夫「大審問官」の作者はだれか？」
- 木下豊房「ロシアのキリスト像の探求」（特別寄稿）

なお、各年度ごとの研究成果については以下の通りである。

1. 2017年度
2017年度の研究実績報告書を参照のこと
2. 2018年度
2018年度の研究実績報告書を参照のこと。
3. 2019年度
2019年度の研究実績報告書を参照のこと。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 亀山郁夫	4. 巻 10
2. 論文標題 「黙過」の想像力	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文学界	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 望月哲男	4. 巻 1-12
2. 論文標題 名場面からたどる『罪と罰』（13）～（24）	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 NHKテキスト まいにちロシア語	6. 最初と最後の頁 134-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀山郁夫	4. 巻 第4号
2. 論文標題 恍惚とニヒリズムの境界 ベルトルッチとドストエフスキー（1）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Artes MUNDI	6. 最初と最後の頁 109-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀山郁夫	4. 巻 第41巻第10号
2. 論文標題 ドストエフスキーの黒い言葉（1）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 194-212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀山郁夫	4. 巻 第41巻第11号
2. 論文標題 ドストエフスキーの黒い言葉(2)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 166-176
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀山郁夫	4. 巻 第41巻第12号
2. 論文標題 ドストエフスキーの黒い言葉(3)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 180-190
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀山郁夫	4. 巻 第42巻第1号
2. 論文標題 ドストエフスキーの黒い言葉(4)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 266-277
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀山郁夫	4. 巻 第42巻第2号
2. 論文標題 ドストエフスキーの黒い言葉(5)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 248-259
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀山郁夫	4. 巻 第42巻第3号
2. 論文標題 ドストエフスキーの黒い言葉(6)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 224-236
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計19件(うち招待講演 0件/うち国際学会 2件)

1. 発表者名 亀山郁夫
2. 発表標題 復活と死の境界にて 『白痴』をめぐる一考察
3. 学会等名 日本ドストエフスキー協会(科研費発表会:全体研究集会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 亀山郁夫
2. 発表標題 ドストエフスキーの影 村上春樹とカズオ・イシグロ
3. 学会等名 名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 望月哲男
2. 発表標題 『白痴』:時間論の背景
3. 学会等名 日本ドストエフスキー協会(科研費発表会:全体研究集会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 望月哲男
2. 発表標題 『白痴』と『アンナ・カレーニナ』
3. 学会等名 日本ロシア文学会（公開シンポジウム『ロシアの文化 その魅力と鑑賞法』）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 越野剛
2. 発表標題 " "
3. 学会等名 ; (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 越野剛
2. 発表標題 ドストエフスキーにおける病と火事
3. 学会等名 日本ドストエフスキー協会（ドストエフスキー国際ワークショップ）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 番場俊
2. 発表標題 『白痴』の顔への文化史・文化理論的アプローチ
3. 学会等名 日本ドストエフスキー協会（科研費発表会：全体研究集会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 亀山郁夫
2. 発表標題 ベルトルッチと父殺し、ひとつの仮説
3. 学会等名 ドストエフスキー国際ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 番場俊
2. 発表標題 ドストエフスキーとグラフィックな想像力
3. 学会等名 ドストエフスキー国際ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 越野剛
2. 発表標題 『北（ノルテ）－歴史の終わり』考
3. 学会等名 ドストエフスキー国際ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林良児
2. 発表標題 ロベール・ブレッソンとドストエフスキー
3. 学会等名 ドストエフスキー国際ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梅垣昌子
2. 発表標題 ウディ・アレンとドストエフスキー
3. 学会等名 ドストエフスキー国際ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 望月哲男
2. 発表標題 遍歴の修道士パルフェニーとアトス
3. 学会等名 「プラトンとロシア」研究会・春季研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Go Koshino
2. 発表標題 "Illness and Fire: Rethinking Anastasia's Emotional Behavior" in The "Idiot"
3. 学会等名 International Symposium "The Problem of Emotion in Nineteenth Century Literature: Dostoevsky, Other Writers and Beyond."
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 望月哲男
2. 発表標題 『戦争と平和』からみたドストエフスキー
3. 学会等名 ドストエフスキー国際シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 越野剛
2. 発表標題 現代アジアの映像作品におけるドストエフスキー『罪と罰』の翻案
3. 学会等名 日本比較文学会全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Satoshi Bamba
2. 発表標題 Referring to the Face:Dostoevsky's The Idiot in the History of Physiognomy
3. 学会等名 XVII Symposium of the International Dostoevsky Society
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 梅垣昌子
2. 発表標題 表層と反復と変奏 ドストエフスキー、ウディ・アレン、そしてヒッチコック
3. 学会等名 ドストエフスキー国際シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 亀山郁夫
2. 発表標題 ドストエフスキーと金
3. 学会等名 ドストエフスキー国際ワークショップ
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 亀山郁夫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 134
3. 書名 ドストエフスキー 『カラマーゾフの兄弟』	

1. 著者名 番場俊	4. 発行年 2019年
2. 出版社 現代書館	5. 総ページ数 220
3. 書名 <顔の世紀>の果てにードストエフスキー 『白痴』を読み直す	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	林 良児 (Hayashi Rhoji) (40123327)	名古屋外国語大学・外国語学部・教授 (33925)	
研究分担者	甲斐 清高 (Kai Kiyotaka) (50367835)	名古屋外国語大学・外国語学部・准教授 (33925)	
研究分担者	梅垣 昌子 (Umegaki Masako) (60298635)	名古屋外国語大学・外国語学部・教授 (33925)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	望月 哲男 (Mochizuki Tetsuo) (90166330)	中央学院大学・現代教養学部・教授 (32505)	
研究分担者	番場 俊 (Bamba Satoshi) (90303099)	新潟大学・人文社会科学系・教授 (13101)	
研究分担者	越野 剛 (Koshino Go) (90513242)	東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・助教 (12601)	
研究分担者	野谷 文昭 (Noya Fumiaki) (60198637)	名古屋外国語大学・外国語学部・名誉教授 (33925)	
研究分担者	諫早 勇一 (Isahaya Yuichi) (80011378)	名古屋外国語大学・外国語学部・名誉教授 (33925)	